人文研アカデミー2019

研究集会

現場から考える天皇制

「平成」から「令和」への元号制定、代替わりへと、マス・メディアから学界まで、皇室賛美への同調が「国民」に求められるなかで、個人としての天皇ではなく、制度としての天皇制について皆さんと考えたいと思います。いま、象徴天皇制は多くの「国民」によって支持されていますが、その内実は、生まれながらの貴種を生み出す「身分制」と言えます。研究集会では、この天皇制を、人びとの暮らしの現場から、例えば、儀礼、植民地、心のあり方、性のあり方といった点からとらえ直してみたいと思います。

場所：京都大学人文科学研究所4F大会議室

日時：2019年11月10日（日）午後1時～

司会　**藤原辰史**（13：00～13：10）

高木博志（13：10～13：40）

「近代天皇制と天皇就任儀礼」

池田浩士（13：40～14：10）

「「象徴天皇」とは何か？――天皇制の中に生きる私たちの自由と権利と責任」

井野瀬久美惠（14：10～14：40）

「帝国の調整者としての女王――比較対象としてのイギリス」

休憩（14：40～14：50）

駒込武（14：50～15：20）

「「反日」「非国民」「不敬」をつなぐもの――民族的他者を析出する装置としての天皇制」

茶園敏美（15：20～15：50）

「パンパンといわれたおんなたちと「天皇制」のおとこたち」（仮）

福家崇洋（15：50～16：20）

「天皇制と現代文明の行方」

休憩（16：20～16：30）

全体討論（16：30～17：30）

登壇者略歴

池田浩士（いけだ・ひろし）

京都大学名誉教授。『文化の顔をした天皇制』、『［海外進出文学］論』既刊3巻、『虚構のナチズム』、『子どもたちと話す　天皇ってなに？』、『抵抗者たち――反ナチス運動の記録』、『ヴァイマル憲法とヒトラー』、『ドイツ革命』、『ボランティアとファシズム』など。

井野瀬久美恵（いのせ・くみえ）

甲南大学文学部教授。『黒人王、白人王に謁見す――ある絵画のなかの大英帝国』（山川出版社）、『大英帝国という経験』（講談社）など。

駒込武（こまごめ・たけし）

京都大学大学院教育学研究科教授。著書に『世界史のなかの台湾植民地支配』（岩波書店）、共編著に『戦時下学問の統制と動員』（東京大学出版会）等。

高木博志（たかぎ・ひろし）

京都大学人文科学研究所教授。著書『近代天皇制の文化史的研究――天皇就任儀礼・年中行事・文化財』（校倉書房）、編著『近代天皇制と社会』（思文閣出版）など。

茶園敏美（ちゃぞの・としみ）

京都大学人文学連携研究者（人文科学研究所）。著書に『もうひとつの占領』（インパクト出版会）、『パンパンとは誰なのか』（インパクト出版会）など。

福家崇洋（ふけ・たかひろ）

京都大学人文科学研究所准教授。『戦間期日本の社会思想』（人文書院）、『日本ファシズム論争』（河出書房新社）、『満川亀太郎』（ミネルヴァ書房）など。

藤原辰史（ふじはら・たつし）

京都大学人文科学研究所准教授。著作に『ナチスのキッチン』（共和国）、『給食の歴史』（岩波新書）、『分解の哲学』（青土社）など。